

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	岩手県 矢巾町立矢巾中学校
授業者	鈴木幸子 階 浩哉 北館俊二 原田大士 佐野亜希子 岩渕未央

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

サケの目線で考える自然環境（人・社会のつながりを求めて）

#### 1-2. 学年

3年生

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

6月○学習に向けてのオリエンテーション	11月○海洋教育研究発表会
○学習計画の作成	12月～2月
○海洋教育講演会1 講師：ケンタロ・オノ氏	○学習のまとめ
○講演会を聞いて振り返り	
7月○海洋教育講演会2 講師：田村直司氏	
○講演会を聞いて振り返り	
7月～11月	
○課題研究	

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

自然環境についての学習は、学習指導要領を基に、各教科等を通してすすめているが、教科の学習は、自分たちとは関係のない地域や国、過去や未来の事と捉えがちで、実生活とは遠いものと思われがちである。しかし、近年、異常気象等による災害が頻繁に起こることにより、見て見ぬふりのできない重大な問題であると意識が変わってきた。何が問題なのか、それを解決するために、何をどのように学び、何ができるようになるか、川を下り、海を回遊し、川を遡上していくサケの視点を切り口に問題解決学習に取り組む。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 1 具体的活動や体験を通して、情報を収集し、整理することができるようになる。
- 2 学習を通して、問題を自分との関わりで捉え、生活と関連づけて考え表現できるようになる。
- 3 自分のできることを考え、提案し行動することができるようになる。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	オリエンテーション	学習の目的・学習方法・学習計画  使用教材 プレゼンテーション資料
2	海洋教育講演会1 「国がなくなる！キリバス共和国と地球温暖化」 講師 ケンタロ・オノ氏	ケンタロ・オノ氏を招いての講演会  評価：講演を聞いての感想と自分の学習に関連づける
2	海洋教育講演会2 「サケの生態と環境問題について」 講師 田村 直司 氏 国立大学法人 岩手大学 釜石キャンパス	田村直司氏を招いての講演会  評価：講演を聞いての感想と自分の学習に関連づける
9	課題研究 ○情報収集、まとめ ○発表資料作成 ○ICT活用	○情報収集指導 ○プレゼンテーション資料検討  評価：ICT活用がなされているか
3	1 海洋教育課題研究発表会・・・学級 1時間 2 海洋教育課題研究発表会・・・学年 2時間	評価：自分事として捉え、課題解決のために自分の できることを表現できているか ：発表を聞き、自分の事として捉えることができ ているか。
2	まとめ 学習の振り返り	評価：活動を振り返り、あらためて自分のできる ことを考える事ができたか。 ：課題研究の成果物を作成できたか

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

- ・内陸にある矢巾も、地球規模で考えると島国日本の一部であり、海と関わっていることを理解する。
- ・地球温暖化は、矢巾町にすむ私たちにとっても重要な問題であることに気づく。
- ・地球温暖化についてサケの視点から、問題解決学習に取り組むための意欲を高める。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
導入	
1 なぜ矢巾町で海洋教育を行うのか理解する	○日本地図、世界地図を通して、矢巾町も島国日本の一部であることを確認させる。 ○海は私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。
展開	
2 日本や矢巾町を見舞う自然災害について学ぶ	○近年の異常気象や矢巾町が経験した豪雨災害について振り返りを行い、地球温暖化が原因である可能性が高いことを確認する。
3 地球温暖化によって困っている国について学ぶ	○海面上昇により国土が沈む危機に貧している国があることを知る。
4 研究課題の設定	○研究課題を設定する 岩手にゆかりのある「サケ」の目線で考える事で、環境や人・社会のつながりについて考える事ができることを知る
まとめ	
5 自分自身の未来として考える	○自分の未来として具体的に考える。 ○具体的な研究方法について確認する ○自分が具体的にできることを考える。

### 3. 今回の活動の自己評価

今回の活動では、岩手大学と連携し、生徒の学習をブラッシュアップしていく事を計画したが、新型コロナウイルスにより、本稿の教育課程が影響を受けたこと、学生との交流に制限があったことで変更を余儀なくされた。

しかし、早い時期に計画したケンタロ・オノ氏や田村直司氏の講演会は対面で行うことができ、生徒の学習意欲や興味関心の高揚に大きな効果があった。リモートの良さもあるが、対面の良さをあらためて感じた。

生徒は、ICTを活用し学習を円滑に進めICTの大きな可能性を感じた取組でもあった。

### 4. 今後の課題

中学校では、総合的な学習の時間で実施する価値が大きい内容であると感じている。それをどのように学校の教育課程に結びつけていくか、さらに周知が必要であると考えます。

また、助成がない場合、どのように予算措置をするかも課題である。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項無し。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。